

中学校 第3学年 社会科（公民） 学習指導案

北海道八雲町立野田生中学校
教頭 川端 裕介

単元名 第2章2節 憲法が保障する基本的人権（11時間）

単元のねらい

- 基本的人権を守るという視点から、個人の尊重や法の意義についての理解を深める。
- 民主的な社会生活を営むためには、法に基づく政治が大切であることを理解し、日本の政治が日本国憲法に基づいて行われていることの意味を考える。

本時のねらい

- 生命の大切さとともに、すべての人権の根源には個人の尊重という考え方があることを理解する。
- 誰もがかけがえない存在であるためには、法の下での平等という考え方が大切であることに気づく。（第1時）

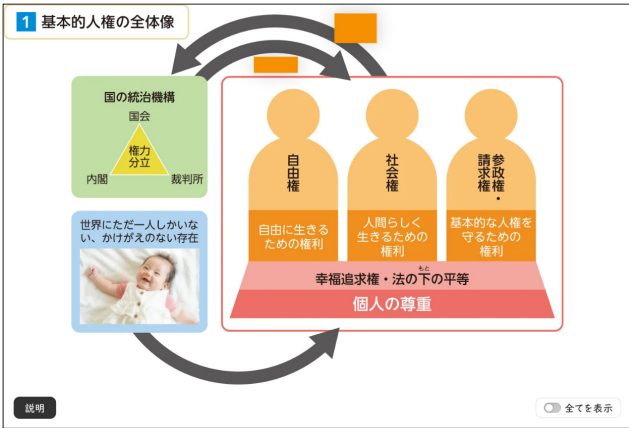
指導時期 9月下旬

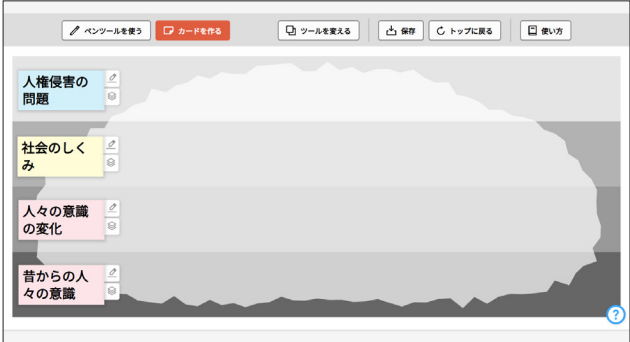
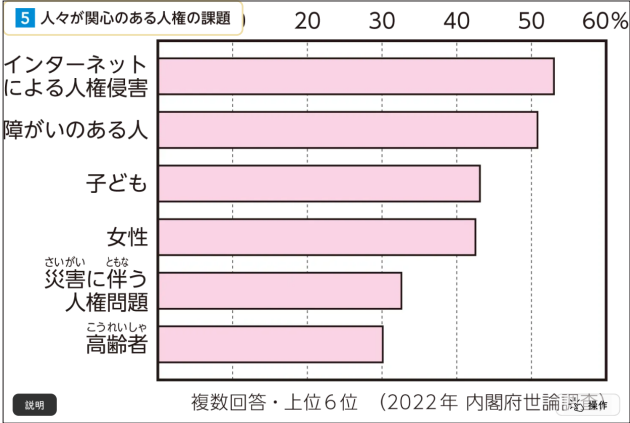
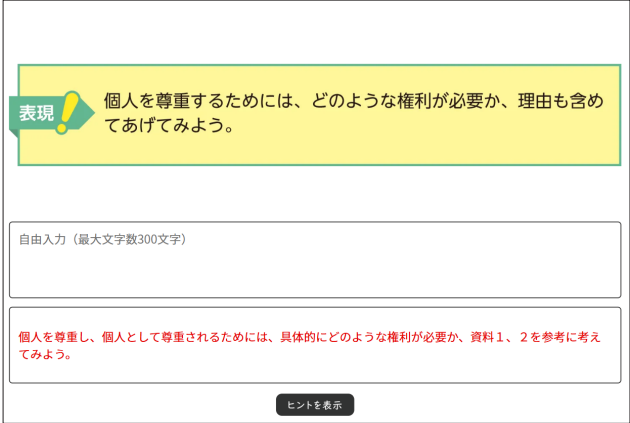
指導者用デジタル教科書（教材）活用の意図・目的

単元の導入となる授業では、単元を貫く問いを生徒が把握し、追究に値すると理解することが重要である。特に公民的分野では、すべての生徒が身近な生活と学習内容を結びつけ、他人事にせずに考えたり、社会参画の意識を醸成したりするように、単元の学習を工夫したい。そこで、「指導者用デジタル教科書（教材）」を活用し、写真やグラフを大きく提示したり、ペンツールを用いて着目すべき点を書き込んだりすることで、学習に残される生徒を減らすことができる。また、単元を貫く問いに対する最初の考えを書き記す場面では、各見開き右下にある「表現」を活用することで、生徒が見通しをもって学習できるようになる。

本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 「指導者用デジタル教科書（教材）」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。 ● p.49 資料4①から便利さの反面で人権が侵害される可能性について考える。 ■：資料の顔認証システムには、心配なことはありませんか？ ◎：使い慣れていないと困る。 ■：人権に関わることで、心配なことはありませんか？ ◎：顔のデータが登録されているので、流出したら困る。 ◎：ニュースで個人情報の流出について聞いたことがあるから、たしかに心配だ。	指導者用  ● p.49 資料4①の写真を拡大表示する。  ● 写真について生徒が注目した箇所にポインターを当てたり、ペンツールで書き込んだりする。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 本時の問いを把握する。 ■ T：顔認証システムは、現代社会のどのような特色と関連しますか？ ● C：情報化社会。 ■ T：他に、現代ではどのような特色がありましたか？ ● C：グローバル化。 ● C：少子高齢化。	
	社会が変化する中で、私たちは、どのように基本的人権を守って生きていけばよいのだろうか？	
展開	● p.48資料1から基本的人権の全体的な構造を理解する。 ● 「法の下での平等」について、日本国憲法の条文や教科書の説明から定義を理解する。	● p.48資料1の「操作」から「(国は人権を) 保障する」「(国民は国に人権を) 守らせる」という関係を説明する。  ● p.49本文「法の下での平等」を拡大表示する。 法の下での平等 一人一人がかけがえない存在だということは、誰もが等しく尊いということです。そのため国家は、特定の人にだけ利益を与えたり、与えなかったりといった異なる扱い(差別)をしてはなりません。それが法の下での平等(第14条)の考え方です。こうした差別が問題になるのは、国家による場合だけではなく、他人からいわれる差別を受けることは、人としての尊厳が傷つけられる重大な人権侵害です。誰もがかけがえない存在であるにもかかわらず、なぜ差別は変わらず、新たな差別が生まれてしまうのでしょうか。私たちは、人権についてその根源から考えていく必要があります。 ● p.49本文10行めの行間にあるリンク (P.240→) から、巻末の日本国憲法第14条「法の下での平等」について記述された箇所を開き、拡大表示する。 第14条【法の下での平等、貴族の禁止、栄典】 ①すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない。 ②華族その他の貴族の制度は、これを認めない。 ③栄誉、勲章その他の栄典の授与は、いかなる特権も伴はない。栄典の授与は、現にこれを有し、又は将来これを受ける者の一代に限り、その効力を有する。

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
展開	●思考ツール「冰山モデル」を活用して、現代社会における人権侵害の問題や、その背景にある社会のしくみ、人々の意識について考え、思考ツールに書き出す。 ●個々に作成した思考ツールを、学習支援ソフトウェアを活用してオンラインで共有し、他の生徒の意見を参考にして、各自の思考ツールを手直しする。	●思考ツールを活用する。 「ツールバー」>「思考ツール」>から「冰山モデル」を選択する。以下のようなカードを作成したら、画像で保存し、学習支援ソフトウェアで生徒用端末に共有する。  ●参考資料として、p.49資料5「人々が関心のある人権の課題」を拡大表示する。 
まとめ	●思考ツールにまとめた内容に基づいて、単元を貫く問いに対する現時点での考えを表現する。 ●単元を貫く問いについて、より説得力のある主張にするために、必要な情報を整理して次回の学習につなげる。	●p.49右下「表現」の「操作」>「ヒント」ボタンを押して着目すべき視点を提示する。 

指導者用デジタル教科書(教材)を活用したことで得られた効果

本時で活用する「指導者用デジタル教科書(教材)」の機能は、主に次の3点である。

- ① 資料や本文の「拡大表示機能」
- ② 「思考ツール」による考察の補助
- ③ 「表現」を活用した思考の枠組みとヒントの提示

①については、教室のモニターや授業支援ツールを利用し、生徒用端末への画面共有などを合わせて活用することで、生徒の学習を視覚的に支援する。紙の教科書だと、教員の指示を聞きもらして活動についていけない場合があるが、その問題を予防できる。実物投影機で教科書を映す方法でも代替できるが、「指導者用デジタル教科書(教材)」を使えばより素早く提示ができるため、テンポが上がって効率よく授業ができる。

②については、他の媒体でも同じような思考ツールを作成することはできるが、「指導者用デジタル教科書(教材)」の思考ツールを使えば、教科書を見ながらすぐに思考ツールを編集・作成できる。また、必要かつ十分な編集機能があるため、直感的な操作によって授業で使う思考ツールを作成できる。効率よく教材研究や授業準備ができると共に、「この場面なら思考ツールをうまく使えそうだ」というアイデアが生まれやすい。

生徒の学習の様子を見てみると、「冰山モデル」の思考ツールを別の学習支援ソフトウェアに貼り付けて書き込んでいた。また、共有された他の生徒の思考ツールから新たな視点を発見し、それを生かして自分の意見を推敲していた。見方・考え方を働かせながら多面的・多角的に思考する姿が見られた。

③については、答えの幅が広い問いに対して、ヒントを示すことで生徒が考えやすくなる効果がある。ただし、ヒントが思考を狭めてしまう場合もある。その場合は「ヒント」ボタンを押さずに、自由に考えたり、別の形で複数のヒントを示したりする方法がある。

「指導者用デジタル教科書(教材)」の機能を活用することで、教師にとっては授業準備の効率化が図れ教材研究の着想を増やすことができる。生徒にとっては、使い慣れている教科書が基本になっているため、負担感をあまり感じずに ICT 活用ができる。